

あさはらビジョンだより ～春のお披露目会スペシャル～

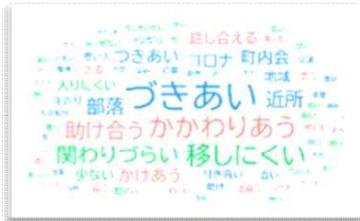
発行 浅原の未来を創る会 (協力) 佐伯支所・浅原市民センター



浅原のみんなでたくさん語り合った、浅原の“ありたい姿”、浅原のまちづくりの“羅針盤”となるあさはらビジョン2023が完成しました。完成をみんなで祝い、ビジョンづくりを振り返り、分かち合いながら、スペシャルゲストをお招きして、“浅原のしあさって”を考え、話し合う、あさはらビジョンのお披露目会 (キックオフミーティング) を6月3日 (土) に開催しました。

2021の浅原まちづくりアンケート・アンケート報告会から『あさはらビジョン2023』ができるまで

第1回W.S. 2022.7.24



◀浅原まちづくりアンケートの結果を分析し、6つのテーマごとの「興味どころを語り合ってみる」からスタート。

第2回W.S. 2022.10.16



◀「わかりやすく伝えてみる。私たちがありたい姿(ビジョン=理想)はこんな姿だ！」を描いてみました。

第3回W.S. 2023.1.22



◀完成した『あさはらビジョン2023』冊子。浅原のひとり一人に配布します。まずは表紙に名前を書いて、あなたも浅原で何したいかテーマに沿ってそれぞれ書いてみましょう。ビジョンは円卓会議でも使います。

◀ビジョンの表紙の元絵として、みんなで作ったBig Picture。そこに『私』を入れ込み、ビジョンのキャッチフレーズ「あなたは浅原で何したい？」を吹き込みました。

冊子のイラストを描いたのは浅原出身の金子絵里奈さん。第2回ワークショップのテーマ「わかりやすく伝えてみる。私たちがありたい姿(ビジョン=理想)はこんな姿だ！」で、参加者みんなで作った絵が原画になっています。「ワークショップに参加された人が、浅原の理想の姿を描いてくれたのでイラストにしやすかった」と笑顔で話されていました。あさみらの長尾事務局長は、「2年前のまちづくりアンケートに始まった着地がこんなすばらしいイラストになり、他地区に誇れるものができた」ととても嬉しそうでした。

ファシリテータの檜谷さんからは、「こういう姿の未来にしたいということをもみんなで作られる。そこに至るプロセスはみんな違ってよくて、その違いを認め合っていくことが大切。ビジョンを叶えるための道中には必ず壁が立ち、はだかるが、それすらもドラマにして、ラストはハッピーエンドにしましょう。ビジョンの完成おめでとうございます。」とコメントをいただきました。



～これまでの経緯を話す二宮副理事長、長尾事務局長、イラスト作成の金子さん～

参加者48人でのトークフォークダンス



檜谷さんの「あさはらビジョンはワークブック的なつくりになっているので、まずは皆さんでワークを実践してみましょう。」の掛け声を皮切りに始まったトークフォークダンス。内と外で円をつくった参加者同士で、冊子の第一印象や『私は浅原で〇〇している(したい)』を愉しく伝え合いました。県立生涯学習センターの職員さんなども一緒になって、1分間という制限時間で、普段あまり話をしたことがない人ともお互いの「浅原観(感)」を紹介し合うことができるというビジョンづくりのプロセスが垣間見え、会場の熱気が一気に高まった瞬間でした。

◀) 伝えたいことが多すぎて話し終わらない人続出のトークフォークダンス

スペシャルゲストに小田切教授を呼んじゃいました

明治大学農学部小田切徳美教授 ～プロフィール～

農村政策論の第一人者、専門は、地域ガバナンス論、農村政策論。東京大学農学部卒業、東京大学大学院博士（農学）。過疎問題懇談会座長（総務省）、農村RMO推進研究会座長（農林水産省）、農業問題研究会会長等を兼任。著書に、『農山村は消滅しない』（岩波書店）、『新しい農村をつくる』（岩波書店）など多数。

小田切先生には午前中、浅原地区内をフィールドワークしていただきました。「大根引いたげるけえ持って帰りんさい。」と地域の人に呼び止められることはめったにないこと。と感激されていました。国の農村RMO（Region Management Organization = 地域運営組織）推進研究会座長を務められている先生には、日本において段階的に進行してきた3つの空洞化（人、土地、ムラ）や新しい地域戦略のお話をいただいた上で、浅原の印象やあさはらビジョンづくりの取組について、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。（以下、先生のご発言の一部をそのまま紹介します。）

皆さんの活動は、『**持続的低密度居住地域の創造**』という、地域の未来を創り直す挑戦であると認識しています。そのポイントとなったのは、**地元学とも呼ばれるワークショップの手法による人材創生（当事者意識をもつ人が増えること）**と、**ビジョンづくりのプロセスを丁寧にされていること**（小さな成功体験を通じて、「他人事

（They）」を「自分事（I）」へ、さらに「地域事（We）」へ）にあると思います。RMOは全国に7,700程度ありますが、その中でも浅原は特に先発的な取組をされています。先ほどのトークフォークダンスのような、**若い姉ちゃんとじじいのごちゃまぜで話ができる**、そういうことが区内でできるから地区外とも混じられる＝関係人口との協働が進みやすく、それが市民センターでなされているということは、まさに社会教育活動の意義を成していると言えます。ここ浅原は、樹枝型集落配置と河川がつくる美しい中山間地域に、重厚な伝統と文化、そして多彩な人材がおられ、その人たちが起こす地域づくりと田園回帰・関係人口の好循環によって、多様なプレイヤーが交錯（ごちゃまぜ）する場ができています。そのことを『**地域全体が縁側**』そのものであり『**にぎやかな過疎**』であると例えさせていただきます。



～ ごちゃまぜなのがいい！ ～

ガチャ・トーク

【お題】

- ① 小田切先生のお話で心に残ったことや質問 ② 「あさはらビジョンのココがステキ」や応援したくなったヒト・コト ③ あなたは浅原で何したい？ マイビジョンの発表



ガチャガチャで引いたお題について、参加者全員が発表し、最後は記念撮影。※ 発表の一部を紹介します

普段の自身の活動の答え合わせができた / 人口減・人材増の浅原 / 居場所と出番があることがイキイキできる理由 / お話にも勇気をもらえた、これからやっていく / I→Weにするためのヒントがほしい ⇒ 小さな成功体験（成功でなくてもいい）を積み重ねる / 「こうなったらいい」が具体的にイメージできた / ビジョンで「浅原のあの人」がわかるのいい / 「あなたは浅原で何したい？」のフレーズが「縁側」という表現にベストマッチ / 初めは他人事だったが関わるうちに自分事になった / ビジョンづくりに関わって幸せだった などなど

（酒井理事長）皆さんのおかげでとてもいいビジョンができました。私たちは意思を強くして、これからの取組にこの『あさはらビジョン』を生かしていくんだという意識の共有もできました。そして、これからがまた**新たなスタート**です。ビジョンを羅針盤として、決してあきらめず、これからも、**みんなで愉しく、暮らし続けられる浅原の未来を創りましょう。**

